

こんにちは。トリプルアイズの白石です。
いつもお読みいただきありがとうございます。

トリプルマガジンでは、当社の製品やサービスについてはもちろん、IT・AIに関する最新情報を発信しています。たまに社内の出来事もお知らせします。身近に感じていただけると嬉しいです。

さて今回のコラムは、「**アレをAIで実現する『AIラボ』始動!**」というテーマでお届けします。

トリプルニュースでは、

「**AIZE が岐阜でバズり中! 2つの導入事例をご紹介**」

「**本日2日目『今すぐ始めるAIビジネス相談窓口』をJapan IT Week名古屋で展示中**」

「**【ウェビナー開催】AI顔認証で実現するコンプライアンス管理! アルコールチェック義務化に向けての具体的な準備とは?**」についてご紹介いたします。

そして連載企画「**開発者が語るAIZEの現在・過去・未来**」第4回です。

囲碁AIから画像認識プラットフォーム・AIZEが誕生した経緯、そして社会実装に至るまでのエピソードを、実際に開発を担当するエンジニアたちが語ります。

IT批評では「**知能から生命へ 人工生命の最前線**」についてご紹介します。

どうぞ最後までお付き合いください。

-----<目次>-----

1. **アレをAIで実現する『AIラボ』始動!**
 2. **トリプルニュース**
 3. **開発者が語るAIZEの現在・過去・未来**
 4. **IT批評**
 5. **編集後記**
-

1. 「アレを AI で実現する『AI ラボ』 始動！」



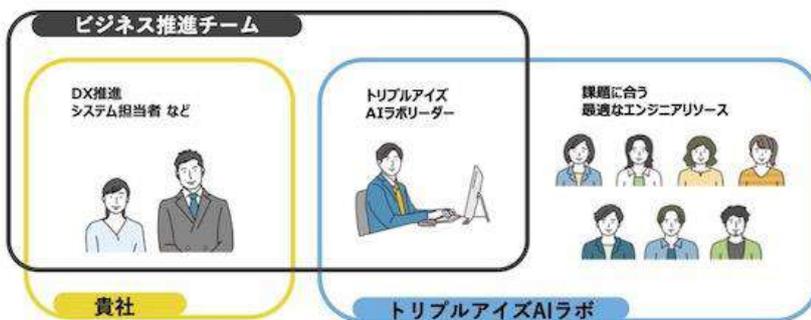
ChatGPT のブーム以降、AI のビジネス活用の機運が盛り上がっていることをヒシヒシと感じます。

当社営業にも、「うちのアレを使って AI でアレ出来ない？」というお問合せが増えています。けっこうアバウトなりクエストが多いのですが、それだけ AI の敷居が低くなってきたことの表れだと思います。そんなリクエストにお応えすべくスタートしたのがトリプルアイズの「AI ラボ」サービスです。

AI ラボとは、「AI 人材を必要なときに必要なだけ提供するサービス」です。

準委任契約の形をとり、請負契約と違って状況に合わせた柔軟な作業依頼が可能です。月額定額なのでコスト計画が立てやすいことも魅力です。

早い話が、AI 人材も知見もないけれど業務を AI 化したいというご要望にゼロからサポートいたします。



ラボ契約のポイント

成果物に対する請負型の契約と違って、要件定義・設計・製造・テスト・運用のどのフェーズからでも柔軟にスタートすることができる

発注段階で詳細が固まっていない新規事業立ち上げや新規サービスの立ち上げ時などに最適

請負型で仕様変更が発生した場合、追加料金がかかりコストが膨らむが、ラボ契約なら、プロジェクト開始後、途中で仕様変更が発生しても安心

希望するスキルを持つエンジニアを安定的に確保できる

自社に開発ノウハウを蓄積しやすい

AI ラボは、これまで DX が進んでいなかった業界や会社様にこそお勧めいたします。

例えば、不動産業者様では、自社の顧客データ分析に基づいて**営業支援 AI ツール**を開発しました。

また、製造業者様には、自社のデータと SNS のデータを掛け合わせた **AI による需要予測・在庫の適正化**をサポートいたしました。

「うちのアレ（データ）を使って AI で何か出来ないかな？」とお考えの方、ゼロから一緒になって取り組みます。ぜひご相談ください。

詳しくはこちら：<https://www.3-ize.jp/ailab/>

2. トリプルニュース

AIZE が岐阜でバズり中！ 2つの導入事例をご紹介



このところありがたいことに、岐阜県で AIZE をご導入いただく企業様が増えています。

今回はアルコールクラウドチェックシステム・[AIZE Breath](#) をご導入いただいている金子工業株式会社様（岐阜県下呂市）、[顔認証勤怠システム](#)をご導入いただいている有限会社萩原チキンセンター様（岐阜県下呂市）へ、実際に AIZE を導入されてのご感想をお伺いいたしました。

それぞれのインタビューはこちらよりご覧ください。

■全拠点にハンディタイプのアルコール検知器 90 台を導入

— 顔認証 AI を活用して管理業務の DX と法令対策を実現：<https://onl.sc/RtdgQAR>

■AI 導入ははじめの一步は顔認証勤怠

— 「萩屋ケイちゃん」の代表が語る DX への取り組み：<https://onl.sc/3dsnCJu>

本日 2 日目『今すぐ始める AI ビジネス相談窓口』を Japan IT Week 名古屋で展示中



昨日から開催中の **Japan IT Week 名古屋**、盛り上がっています。

9 の専門展から構成され、幅広い IT 分野を網羅した中部最大の IT 展示会。

当社は『**今すぐ始める AI ビジネス相談窓口**』というブースコンセプトで展示を展開中です。

クラウドはもとより API 連携や SDK による組み込みにも対応できる拡張性の高い AI エンジンで、お客様のニーズに寄り添った AI 実装を提案します。

一番の見どころはメディアでも紹介された「**7つの感情をリアルタイムで可視化する AI 感情分析**」を体感できるコーナー。ほかにも、アルコール検知 AI クラウドシステム「AIZE Breath」や、顔認証による勤怠管理が可能な「AIZE Biz」のデモ体験もいただけます。またブースでは**来場者様限定で「AI 導入カウンセリングチケット」**を配布します。

会場へお越しの方は、ブーススタッフに「アレを AI でできないかな？」とお気軽にお声がけください。

本日も入れてあと 2 日！ 皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

展示会概要はこちら：<https://www.3-ize.jp/information/3316/>

入場チケットは[こちら](#)

【8月2日ウェビナー開催】AI 顔認証で実現するコンプライアンス管理！ アルコールチェック義務化に向けての具体的な準備とは？



本メルマガでも何度かお伝えさせていただいている通り、今年の 12 月 1 日より「**白ナンバー**」保有事業者のアルコール検知器使用が義務化される予定です。

今回はここでしか聞けない「AI 顔認証で実現するコンプライアンス管理」というテーマでウェビナーを開催します。

現場の業務負荷により発生する「後回し」と「記載漏れ」のリスクが懸念されるなか、鍵となるのは「**簡単に正確な管理**」。本セミナーでは、AI 顔認証とアルコールチェックと検温を一連の動作で行う「AIZE Breath」を使った、運行日誌の自動作成についての具体的な方法をご紹介します。

直行直帰にも対応できるスマホ連携、データはクラウドに一括で自動記録され工数軽減、さらには顔画像に紐づくのでなりすましや虚偽報告対策に効果的となります。

今回の法改正によって、運転者や安全運転管理者の管理運用に悩まれている方、運転者や管理者の工数を削減したい方、記録漏れ、なりすましなどコンプライアンス違反に課題を持っている方に特におすすめのウェビナーです。

■ウェビナー概要

日時：2023年8月2日（水）14:00~15:00

費用：無料（ご参加には予約が必要です）

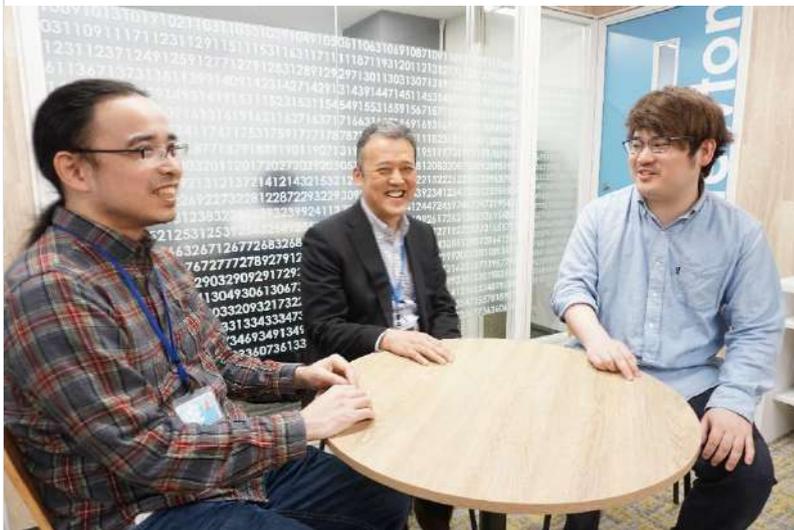
申込方法：下記ページよりお申し込みください

<https://majsemi-business.doorkeeper.jp/events/160002>

開催方法：オンライン（Zoomにて）

3. 開発者が語る AIZE の現在・過去・未来

トリプルアイズ開発部の頭脳とも言えるエンジニア3人が座談会を行いましたので、その模様をお伝えします。第4回目は**社内エンジニアの育成**についてです。



松崎憲介（写真左）技術本部 AIZE 開発部副部長・徳内哲也（写真中央）技術本部執行役員・片淵博哉（写真右）技術本部 AIZE 開発部部长

優秀な AI エンジニアが育つ土壌を耕す

片淵：社内の AI 系エンジニアの育成については、[AT20](#)（advanced technology 20 = 社内のエンジニアの 20% を先端テクノロジストに育て上げる）というプロジェクトを4年ほど継続しています。

これは、ビジネス的な観点も含めての**ジェネラリストの育成とスペシャルな AI エンジニアの育成**という2つが目標に

なっていて、画像認識やチャットボットの AI モデルを自分でつくって評価できるぐらいのところまでの教材が用意されています。

スペシャルな AI エンジニアは年に 2、3 人ほどしか合格してないですが、合格した人に対してはデータサイエンスや AI 開発にアサインしていく予定です。あとは、みんながみんな AI やデータサイエンスをやりたいわけではないので、AI 以外のエンジニア育成のために e ラーニングで外部の教育サービスを使って、本人が望むキャリアに進めるための教育プランを会社でサポートしています。

松崎：今後は社内でプログラムコンテストもやりたいですね。AIZE API を公開して何かつくるような。

片淵：チームでやったら面白いですね。エンジニアも必要なんですけどジェネラリストも必要だと思うんです。そこはチーム制にして、ジェネラリストがプランナーの役割を果たして、こういうサービスはどうですかと提案する。プログラムは書けないけどアイデアはあるという人が、プログラムを書ける人とチームを組んでやったら面白いかなと。顔認証に縛らないで ChatGPT と合わせて何かするとか、他の画像処理系のプログラムと組み合わせてもいい。

徳内：それはぜひ実現しましょう。エンジニアとして成長するには、興味を持つというのが一番大事な。面白くできなかったら興味も持てないので、そこは気を使っている部分もあります。自分が新しい技術を習得するのも興味があるからやっているわけで若手の人たちもそこを目指してほしい。

松崎：技術に関する新しい情報があったらチームで共有するようにしています。それを読んで議論したりしますね。あとは、開発してもらったプログラムを読んでレビューやアドバイスをしています。専門分野だからこそ、お互いに論文を読んで話し合って高めていくことは必要ですね。

片淵：なるべくキャリアプランに合うようなプロジェクトにアサインできるようにしています。そのうえで本人が足りてないスキルに関してはアドバイスしています。

あとは引き出しを増やしてあげることが意識しています。サーバーもアプリケーションも AI もフルスタックにできるように引き出しを増やしてあげられるようなことを、意識してやっています。引き出しが多いほうが実践力も高まりますから。（次号に続く）

4. 【IT 批評】 今月の特集記事

知能から生命へ 人工生命の最前線—東京大学大学院総合文化研究科教授 池上高志氏に聞く



ChatGPT のブーム以降、AI が意識や心を獲得すること、また人間に代わる新たな生命となることについて、期待を込めて語られることが多くなりました。

しかしそこで語られる意識や心、生命とは何なのか。人工生命（ALife）を研究する東京大学の池上高志教授に生命の定義を中心に話をお聞きしました。ぜひご一読ください！

- (1) 知能から生命へ 人工生命の最前
- (2) 心と生命、身体の新しい見取り図
- (3) フレームを壊し、ルールをアップデートする

ぜひご一読ください！

<https://it-hihyou.com/>

編集後記

今回も最後までお読みいただきありがとうございました。

最近トリプルアイズ本社では顔認証で出勤ができるようになりました。

今までは PC を立ち上げて、勤怠システムにログインして…と席について 2 分はかかっていたところ、エレベーターを降りた瞬間わずか 1 秒で完結。自社サービスながら、なんて便利なのでしょう。

純粋に、皆様にもこの便利さをぜひ体感していただきたいなと思います。

(名古屋にいらっしゃる方は、今なら展示会で体験いただけます！)

それでは、次回のトリプルマガジンもお楽しみに！
